

振動刺激痙縮抑制法を受けられる方へ

—患者さん説明用—

痙縮とは？

痙縮とは、脳卒中等により麻痺した手足の筋肉が過剰に緊張してしまい、手足が動きにくくなったり、勝手に動いてしまう状態のことです。下図のように、指が開きにくかったり、歩く時に踵が接地しにくくなる等の症状により、日常生活において様々な支障が生じてしまいます。



振動刺激痙縮抑制法について



左図のように、家庭用の電気バイブレーターを痙縮のある筋もしくは手のひらや足の裏にあてて刺激します。**痙縮の抑制効果は一時的**ですが、筋のこわばりや突っ張りが和らいでいる状態で、効果的に手の操作練習や歩行練習を行なうことができます。
※効果には個人差があります。即時効果が得られない場合は適応となりません。

適応：脳卒中等により、運動麻痺のある手足に痙縮のある方

除外項目（下記項目にあてはまる方はこの治療の対象となりません）

- ・ペースメーカー等の体内埋込型電子機器を使用されている方
- ・刺激部位に創傷・はん痕・発疹・潰瘍等の皮膚症状のある方
- ・高度の関節拘縮を生じている方や、骨粗鬆症で治療中の方
- ・刺激部位周辺に金属や透析シャントなどの体内異物がある方

※上記に加え、さらに詳細な評価をさせていただいた上で治療が可能か判断いたします。

当院では痙縮に対して、電気刺激療法や装具療法なども行なっています。また、リハビリテーション科では、神経ブロック療法、ポツリ又ス療法も行っています。リハ科医師による診察が必要ですので、詳細については担当療法士へご確認ください。